

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502439		
法人名	有限会社 ドリーム・キャスル		
事業所名	グループホーム 鶴寿(パラユニット)		
所在地	札幌市清田区北野2条2丁目19番27号		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0170502439-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には個々の望む事を出来る限り提供したり、家庭的な雰囲気の中で安心した生活を過ごして頂けるよう日々、取り組んでいます。レクリエーションやドライブ、お誕生会、季節の行事などを大切に、入居者様に満足していただけるよう配慮しております。
 非常災害時は、車椅子の方でも避難しやすいようバルコニーが大きく、スプリンクラーも完備。消防への通報装置が連動しているなど、安全面に配慮した建物です。向かいにはスーパーなどの買物施設が立ち並び、歯科や眼科、耳鼻科が隣接しているのも、とても便利な立地環境です。協力医療機関として歯科が2ヶ所、内科1箇所と結んでいますので、何かあった際にもすぐに相談出来るので安心です。
 すぐ近くには公園があるので、暖かい季節には今まで以上に散歩外出が楽しめると思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市清田区内にグループホームキャスル清田として開所して11年経ち、昨年末に同じ清田区で新築移転と同時に名称をグループホーム鶴寿と改名した。ホームマックなどの施設が近くに有り、地域のイベントがその施設の2階で開催されることで、利用者と共に参加し地域住民との交流を図っている。また、町内会会長はグループホームに理解があり、運営推進会議等にも積極的に参加しており、町内会との対話や相談で、住民との交流が深まっている。地域住民とは、地域のお祭りなどに参加して交流し、事業所として対応できる範囲内で地域に溶け込む努力をしている。木造2階建ての事業所のトイレは、職員用も含め、各階7ヶ所ありスタッフと利用者にとって便利な設備になっている。また、家族会が運営されており、家族総会では多くの家族と職員が交流して意見交換し事業所の運営に反映されている。法人は職員育成に努め、外部研修には研修費補助を行い、職員が資格を取得する場合積極的に支援しており、常に介護の質の向上に努めている。職員は生き活きと活発に行動できる環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議を通じ、全職員で意見を出し合って理念を作り、年間の目標を設定、実践している。また、年2回読み合わせを行い理念の共有に努めている。	事業所理念と年間の目標を作り、毎月行われる全体会議の内、年2回は事業所理念の読み合わせを実施し、ケアに結び付けるよう職員で共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどの行事や催事に参加している。	地域の祭り等に積極的に参加しており、回覧板で事業所の案内や活動を紹介している。また、区域全体のグループホーム交流会には利用者も参加して交流を深めている。中学校の職場体験を受け入れ、ボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホーム見学を誰でも気軽に来易い雰囲気にしていく。その際に認知症とはどのような症状かなど事例を踏まえてお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を二ヶ月毎に開催している。火災や災害時などの対応について等、ホームとしての具体的な取り組みを報告しながら意見交換している。	年6回開催し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが出席して事業報告、行事報告、研修報告などを行い、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。避難訓練時には消防署から講評をもらい、出席者へのアドバイス・意見を発表している。次回の会議の議題やテーマを決めて次の会議につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	待機者・空き状況を月に一度、市担当者に報告している。また、区の保険福祉課を訪れ、介護保険更新の手続きについて相談、助言をもらっている。	運営状況などを報告し、指導や情報提供を得ている。新築の事業所に移転するときに、環境の指導やアドバイスをもらった。事業所の状況報告や提供できるサービスについてもアドバイスをもらって協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し学習会を実施している。玄関の施錠はせず、ドアチャイムや赤外線センサーをつけ、入居者様の行動を見守りながら声掛けにて対応している。	資料やビデオ等を用いて勉強会を開いて、行動を抑制するような言葉による拘束を行わないよう、職員間で話し合っって身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠は防犯上夜間のみ実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の対応や言葉遣いに気をつけるよう日々の業務内で職員間で配慮している。また、学習会でも具体的な事例を検証、不適切な言葉かけがないよう注意を払っている。スタッフがストレスを溜め込まないよう相談しやすい関係を作っている。		

グループホーム 鶴寿(パラユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の尊厳や権利・成年後見制度についての学習会を実施。全職員で知識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、電話の問い合わせには、迅速に対応している。不安や疑問の解消に努めている。重要事項説明書の内容を変更する際には、再度しっかりと説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回行う家族会やご家族面会時に気軽に話せるような場面を作り、意見、要望などを求めている。遠方のご家族には、電話・通信を利用している。	利用者の意見、要望は日常の会話から意向の把握に努め、家族とは、来訪時に意見や要望を聞くように努めている。家族会の総会に参加して意見や要望等を聞いて、職員会議で協議し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議などを通じ、積極的に意見交換を行う事で入居者様にとってより快適な環境改善ができています。	新築の事業所になって、使いやすい施設環境を良くする職員からの意見やアイデアが運営に反映されている。居間からは玄関から入る外来者が見えるために、利用者の不安等を防止するようなカーテン生地を選択で改善したりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入している。また目標管理シートを利用する事によって各職員が向上心を持つ体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する際は、研修費の援助も行っている。プライバシー保護や認知症ケアの取り組みについて等、毎月テーマを決め、内部研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区内の他事業所との連携を図り、定期的な研修会、情報交換、施設見学などを行っている。清田区グループホーム管理者会主催による交流会にも企画から参加している。		

グループホーム 鶴寿(バラユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活を送れるよう希望や、嗜好をお聞きして、ケアプランにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や疑問点は何でも聞いていただけるよう相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた際、現状と今後の希望を伺い、微力ながら福祉に携わるものとしての助言をさせていただく。許可をいただいた上で、担当のケアマネや主治医と今後のケアについての相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望に合わせて、役割りを決め、主体的に過ごせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか面会に来れない方には電話でのやりとりを促したり、ケアプラン更新の際には一緒に考えていける関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に良く連絡を取られている方や面会にくる予定のある方を事前にお聞きし、入居した事によって関係が切れて寂しい思いをしないよう支援している。	入居時のアセスメントシートや家族からの会話から、友人・知人を把握して、馴染みの場所への散歩・訪問などに活用している。利用者と家族が馴染みの場所に行く要望があれば準備等の支援をして送り出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場として利用者様同士も円滑に楽しく過ごせるようレクなどを通して関われる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が代表して、退去された入居者様の様子を見に行ったり、ご家族に状況確認するなど関わりを持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や趣味を大切に、入居したから出来なくなった。ということがないように努めている。ご本人視点でのケアプラン作成を行っている。	利用者や家族の要望をその都度アセスメントシートに書き足し、スタッフ会議で見直し情報の共有をしている。利用者との会話や仕草から意向をくみ取り、実現に向けて検討し、楽しい生活が出来るような環境づくりに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人より入居前に詳しく聞き取りしたり、他事業所より情報提供をしていただいている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にケアプランを実施した内容等を詳しく記載するようにし、申し送りや職員会議を通じ、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前にサービス担当者会議を実施している。会議に参加出来ない方からは事前に意見を頂き、チームの意見を反映したケアプラン作成を行っている。	利用者や家族の要望、医師の情報を基にスタッフ会議で協議して介護計画を半年に1回は見直しし、新入居者については3ヶ月に1回は見直しして家族の同意を得ている。利用者の状態に変化があればスタッフ全員で意見交換やカンファレンスを行い、家族の同意を得て見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアプランの評価を毎日記録している。それらの情報をまとめて実践やケアプランの見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、理・美容室の送迎、買い物、病院受診の同行をしている。また、定期的に遠方へドライブに出かけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加したり、ご近所を散歩して近隣住民の方と会話して楽しんでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を活用している。主治医とは、24時間連絡が取れるようになっている。また、入居前の主治医や歯科往診など、個別状況に応じ支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。かかりつけ医受診には家族が連れて行くが、利用者や家族から要望があれば応えるよう支援している。2週間に1回の訪問診療がある。		

グループホーム 鶴寿(バラユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気がかりな事があれば、その都度、訪問診療先の看護師や主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居中のご様子入院時に口頭やアセスメントシートにて報告している。入院中、ご本人様が安心出来る様、管理者がお見舞いに行っている。入院中の情報収集はこまめに行い、受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の際は、早い段階でご家族と話し合いを重ね、要望に応じて適切な施設・病院などの情報提供を行う体制を整えている。	入所時に重要事項として、書面と口頭で説明し同意を得ている。看取りはしていないが、利用者の状況変化等は医療機関の受診の段階で早めに家族に報告し、主治医を交えて相談に乗るよう努めている。また、2カ月以上の入院と容態によっては重度化とみなして家族には理解を得るようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員が見やすいところに保管。定期的に内容の精査、更新を行っている。また、学習会でシュミレーションをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	火災はもちろん、自然災害時の対応、避難場所や地域との連携について社内会議や運営推進会議でも議題にあげて話し合いを行っている。	避難訓練は夜間想定訓練を含め年2回以上実施している。その内1回は消防署との合同訓練で、地域住民も参加しており、終了後は講評と事業所及び町内会へのアドバイスを受けている。備蓄品については内容及び数量について検討中である。	災害時における事業所近くの一次避難場所確保について、町内会会長と話し合いを続けて利用者には負担がかからない避難場所を確保し、指定することを期待する。 また、水・食糧などを備蓄し災害に備えることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会から利用者の尊厳を学び、理解を深める事で細やかな対応に努めている。	言葉遣いや年長者として敬うことを忘れないよう学習会で、意識付けをしている。声掛けを行うときは利用者のプライバシーに気を付けて対応している。プライバシーにかかわる事は事例集を作って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の生活の希望を尊重して対応している。認知症の進行により自己決定が難しい方にも、意見を引き出せるよう関わりで工夫している。職員の一方的な考えにならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的な行動に繋げる雰囲気作りに努め、入居者様の気持ちに寄りそった支援を最優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やアクセサリーをつけたいなどの希望があれば、その都度対応している。		

グループホーム 鶴寿(バラユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養アセスメントを作成している。盛り付けや食器の準備、片付けを一緒に行っている。時にはメニューの希望を聞いて楽しみに繋げている。	下ごしらえから配膳や下膳など利用者の参加があり、職員と会話をしながら食事を楽しんでいる。誕生会等の催しには特別メニューで楽しんでもらい、外食については利用者の要望に応えるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事・水分量をチェックし、摂取量が少ないときは、時間を問わず補食してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを心掛けていただくよう声掛けを行っている。介助を必要とする方は職員にて実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄面のアセスメントやモニタリングを定期的に行って、おむつは必要最低限の使用となるよう自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、表情、動作、仕草などから適時にさりげなく自立たない声かけでトイレに誘導している。パットからリハビリパンツに移行しながら、自立に向けた排泄支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や毎朝の牛乳、食物繊維を含んだものを提供している。また、体操、散歩などの軽い運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間や曜日に合わせた入浴を提供出来るようにしている。入居者様同士の希望が被ってしまった場合は話し合いにて決めている。	入居者の望む曜日や時間に入浴が出来、週2回以上の入浴を促している。入浴剤や楽しい話題を話したりして、利用者の気持ちよい環境を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な日課は決めているが、おおむね自由に過ごしている。入居者様によって入眠時間が異なる為、他の方の睡眠妨害にならないよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の服薬状況を綴ったファイルを作成し、薬についての理解を深めている。服薬時は、複数の職員で確認し誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操やレクリエーション活動、散歩や外出を出来る限りその方の希望に合わせて実施できるよう取り組んでいる。		

グループホーム 鶴寿(バラユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や時期をみながらドライブや外食に出掛けている。ご本人の希望に職員で対応することが困難な場合はご家族にお願いし、出来る限りご本人の希望に添えるよう協力して行っている。	冬期間を除き、近くの公園の散歩など利用者の要望に沿った外出支援を行っている。遠方へも車椅子用車両やワゴン車等を利用して、花見などの季節の外出、外食やショッピングに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出を定期的に行い、スーパーや衣料品店で入居者様が買い物や外食をしている。また、地域の催事に参加した時は、出店で欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度、取り次いでいる。また、近くの郵便局へ手紙を投函する為、出かけるときは同行している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉、季節の花や季節感を取り入れた装飾をしている。入居者様同士がテーブルを囲み会話しやすくなるよう、職員が間に入り居心地のよい空間作りに努めている。また、こまめに清掃を行い、衛生面に気を配っている。	季節感が感じられる居間兼食堂は明るく綺麗で、温・湿度に気をつけている。催事が出来る程の広さが有り、テーブルや椅子、ソファ、テレビ等余裕をもって配置され、落ち着いた雰囲気となっている。トイレは職員用を含めて各階7か所あり、車いすで入れる広さである。事務所からは全体を見渡す事が出来安全面に配慮した作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎ易い空間となるよう好みのラジオ放送、音楽、映像などを流している。また、入居者様が思い思いに過ごせるよう職員がかかわり方を工夫し、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた環境と近くなる様、馴染みの家具、仏壇、連れ添ったご家族の写真などを持ち込んでいる。室温管理は、職員が巡回時にその都度行い、快適に過ごせるよう配慮している。	居室には備え付のクローゼットや、利用しやすい高さで固定されているステンレス製の物干しが備えられている。使い慣れた家具、仏壇などを持ち込み、家族の写真などを飾って居心地よく過ごしている。利用者・家族の要望によりナースコールを設ける事が出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線確保のための家具配置の工夫、必要に応じた手摺の設置など、個々の身体状況に合わせて、自力で安全に移動できる環境整備をしている。		